

第4期日野市高齢者福祉総合計画の進行管理（最終評価）について

・柱1. 複合的な課題に対応できる地域包括ケアシステムの構築

進んだ

No.	重点事業名	担当	実績等
1	地域ケア会議の推進	在宅支援係	・「自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議」を開始し、全包括にて開催。高齢者の自立及び介護予防を阻害する地域課題や必要な地域資源の抽出ができた。
2	生活支援体制整備事業の実施	在宅支援係	・令和4年度より、「互近助サービスちょこすけ」を開始した。また、各団体の交流会も実施し、活動の実際について情報交換した。 ・地域ケア会議や地域課題から、専門職による健康相談会を実施した。地域課題の解決に向け具体的な取組を行うことができた。
3	高齢者見守り支援ネットワークの充実	在宅支援係	・地域の見守りに関する説明会（2回）を実施し、見守り推進員の増加につながった。（令和4年度15名増加） ・ふれあいサロン新規開設（1ヶ所）

・柱2. 介護を支える担い手の確保と介護保険事業サービスの充実

やや進んだ

No.	重点事業名	担当	実績等
1	介護人材確保事業の実施	介護給付係	・「生活援助型スタッフ研修」を実施し、市内介護事業所とのマッチングを行った。 ・研修後には、「おしごと相談会」を開催し、市内介護事業所とのマッチングを行った。
2	資格取得支援事業の実施	介護給付係	・介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、各資格介護福祉士資格試験、介護支援専門員資格試験について、3年間で合計180名に対して介護資格取得補助金支給を行った。
3	介護予防・フレイル予防普及啓発事業	在宅支援係	・介護予防教室、体力測定会の実施を通じて、介護予防に関する基本的な知識の普及啓発を行った。
4	地域介護予防活動支援事業の推進	在宅支援係	・社会福祉協議会の協力を得て介護予防活動団体の支援を行った。 ・自宅でも体操可能な事業として週1回のZoomを用いた介護予防体操を実施し、サロン等で周知を行った。 ・地域介護予防活動団体数は56団体となり、目標を達成した。

・柱3. 医療と介護との有機的なネットワークの構築

「日野市在宅療養体制構築のための基本方針」にて各事業の計画を立てているため、本計画（第4期計画）においては、重点事業は設定していません。第5期計画においては、計画の柱の一つとして進行管理を行っていきます。

・柱4. 認知症や軽度認知障害（MCI）の当事者とその家族を支える仕組みの充実

やや進んだ

No.	重点事業名	担当	実績等
1	認知症の人と家族を支える機関との連携	在宅支援係	・認知症初期集中支援チーム連携会議を定期に開催し、事例の共有と対応方法について情報交換した。
2	認知症サポーターの養成	在宅支援係	・地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座を実施することで、市民の認知症に対する理解を深めた（令和5年度末時点サポーター数：22,937人）
3	チームオレンジの設置	在宅支援係	・令和5年度に、市内初となるチームオレンジの設置を行った。引き続き、チームオレンジの活動について、支援を行っていく。
4	認知症検診事業	在宅支援係	・誕生日ごとに分けて年4回送付した。 ・検診の案内や問診票のほかに、認知症ケアパスという普及啓発冊子を配布し、認知症の周知啓発を図っている。 ・令和4年度より、対象年齢以外の早期発見・早期支援のため、対象者の拡充を図った。（日野市地域包括支援センターが検診を必要と認めた者を追加した。）
5	認知症かかりつけ医等の充実	在宅支援係	・新規医療機関に声がけし、認知症検診実施医療機関数を増加することができた。（R3:34か所→R5:38か所） ・日野市かかりつけ医認知症研修を年に1回実施した。

・柱5. 高齢者が尊厳を保持し、健康で自立した生活を営むための支援の充実

やや進んだ

No.	重点事業名	担当	実績等
1	日野人運動事業と地域介護予防活動支援事業（ひの筋体操等）との連携	在宅支援係	・高齢者（フレイル）向けの運動事業について、情報の取りまとめや情報発信の方法について見直しを行った。
2	摂食嚥下機能支援の推進	在宅支援係	・フレイルアップ教室及び地域包括支援センター主催の介護予防教室、地域活動団体の活動時に、摂食・嚥下についてのミニ講座、口腔ケア、パタカラ体操等を実施した。 ・体力測定会での個別相談で、歯科衛生士・管理栄養士による相談を実施した。 ・「フレイル予防の入り口」という切り口で、摂食嚥下機能低下予防についての周知啓発を図った。

・柱6. 高齢者の安心・安全の確保

進んだ

No.	重点事業名	担当	実績等
1	介護予防・フレイル予防普及啓発事業	在宅支援係	柱2の施策再掲